

平成25年度公益財団法人国際エメックスセンター事業計画

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

I 事業方針

我が国及び海外における閉鎖性海域の環境保全に関する取組みの連携の強化を図り、積極的にこれに貢献するため、人的・知的ネットワークの有効活用を図るとともに、国内外の閉鎖性海域の環境保全に取り組む様々な市民、機関、研究者等の参加を得て、「多様な自然と人間が共生する持続可能な社会」を目指した事業を推進する。

II 事業計画

1 閉鎖性海域環境保全推進事業

ア 第10回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス10）の開催等

エメックス会議は、平成2年（1990年）に第1回会議が神戸で開催されて以来、人類共通の財産である閉鎖性海域の恵沢を次世代に継承していくことが大きな責務であるという観点から、世界のNGO、市民、科学者、企業関係者、行政担当者等が一堂に会する国際的・学際的な情報の交流の場、及び新たな取組みの提案の場として世界各地で開催している。

①エメックス10の開催

MEDCOAST財団との共催によるエメックス10（EMECS10-MEDCOAST 2013）を開催する。そのためセッション構成や会議運営等について、科学・政策委員会委員の助言を得て、プログラム委員会等関係機関において協議するとともに、現地事務局を担うMEDCOAST財団と調整を図る。また日本からも多くの関係者が参加するよう広報に努める。

【エメックス10の概要】

〔期 間〕 平成25年（2013年）10月30日（水）～11月3日（日）

〔場 所〕 トルコ共和国ムーラ県マルマリス
グランドヤズジ・クラブターバンホテル

〔テーマ〕 “Global Congress on Integrated Coastal Management :
Lessons Learned to Address New Challenges”

「統合的沿岸域管理（ICM）に関するグローバル・コンGRESS
～教訓から新たな挑戦へ～（仮訳）」

②里海国際ワークショップの開催

エメックス10における特別セッションの一つとして、「里海国際ワークショップ」を開催する。

〔時 期〕 平成25年（2013年）10月30日～11月2日のうち1日

〔場 所〕 エメックス10会場内

「里海国際ワークショップ」は平成20年（2008年）のエメックス8、平成21年（2009年）の東アジア海域会議（EAS-Congress 2009：PEMSEA(東アジア海域環境管理パートナーシップ)主催）、平成23年（2011年）のエメックス9において特別セッション等として開催している。

主にアジアや欧米での環境保全活動との比較や里海概念を世界に広めることを目的としているが、今後はこれまでのワークショップ等で提起された課題解決に向けて開催する。

③ 青少年環境教育交流セッションへの派遣

第6回エメックス会議（平成15年(2003年)：バンコック）以来、継続実施されている特別セッション「青少年環境教育交流セッション（SSP）」への参加者として、日本から学生2名を派遣する。

〔派遣者決定時期〕平成25年（2013年）6月頃（予定）

書類選考（4月）、面接選考（5～6月）

〔選考委員〕 柳 哲雄九州大学教授（科学・政策委員会副委員長）

川井浩史神戸大学教授（科学・政策委員会委員）外

〔派遣予定数〕2名（高校生または大学1年生）

「青少年環境教育交流セッション（SSP）」は、エメックス会議の特別セッションとして実施されており、世界の学生がともに学び交流を図る絶好の機会にもなっている。

派遣者の募集については、平成24年（2012年）11月から、ホームページ・メルマガ等で情報発信するとともに、瀬戸内海環境保全知事・市長会議を通じて関係府県の教育部局にも推薦を依頼している。

〔応募締切〕平成25年（2013年）3月25日（月）

また、派遣者は現地での発表に先立ちプレゼンテーション等の要領について、選考委員から指導を受けて本番に臨む。

④ エメックス10会議報告書の作成・配付

エメックス10の成果を内外に発信し普及させるため、発表内容等を掲載した報告書を、平成26年（2014年）3月を目途に、日本語及び英語で作成し関係者に配付するとともに、エメックスホームページに掲載する。

⑤ エメックス国際セミナーの開催

エメックス10の結果を踏まえ、会議成果を広く普及するためエメックス国際セミナーを開催する。

〔開催時期〕平成26年（2014年）2月頃

〔開催場所〕神戸市内

〔テーマ〕エメックス10の概要と成果（仮）

「エメックス国際セミナー」は、科学・政策委員の来日の機会となる科学・政策委員会の開催等に合わせ実施しており、海外における閉鎖性海域の環境保全の取組状況などの最新情報を、市民・企業・行政機関等に提供している。

イ 第11回エメックス会議（エメックス11）等の開催事前調整

エメックス11開催地は、平成24年（2012年）6月の科学・政策委員会において、平成28年（2016年）8月にロシアで開催することが合意された。

ロシアでのエメックス会議開催は初めてとなることから、正式アナウンスを行うエメックス10開催までに、現地にて必要な事前調整を行う。

〔時期〕平成25年（2013年）6月

〔場所〕ロシア（サンクトペテルブルク）

〔内容〕・渡辺科学・政策委員長をはじめ関係委員との情報交換・協議
・現地施設の確認（候補予定の会場・ホテル等の確認）

第12回エメックス会議（エメックス12）以降の開催については、開催実績のない新たな開催地の検討及びこれまでに開催された地域のフォローアップの視点から、科学・政策委員と調整を図りながら、開催適地を選定する。

ウ エメックス活動の推進

国際的な調査・研究事業の推進に向けて、海外研究者等との人的ネットワークを構築していくため、関連する国際会議等に科学・政策委員等を派遣し、エメックス活動のPRを行う

エ 国内外機関との連携

① PEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）等との連携

平成20年（2008年）に非政府パートナーとして加入したPEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）やエメックス会議への参画実績があるLOICZ（沿岸域における陸地－海洋相互作用研究計画）との情報交換等を進め、海外機関との連携充実を図る。

② ECSA（河口域・沿岸科学学会）との連携

ヨーロッパの科学者を中心としたECSA（Estuarine & Coastal Sciences Association）の第53回会議が10月に開催されることから、当センター科学・政策委員会委員によるセッションの開催等を行い、エメックスの普及啓発と連携を図る。

- ・開催予定時期 平成25年（2013年）10月（予定）
- ・開催予定場所 中国・上海市内（予定）
- ・開催概要 EMECSセッション開催及びEMECS-ECSA学生賞授与
- ・主催委員 ウォランスキー科学・政策委員（オーストラリア）
陳科学・政策委員（中国）

ECSA（Estuarine & Coastal Sciences Association）は、2006年開催の第7回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS7）において会議を共催した国際的な学会で主にヨーロッパの科学者を中心に構成されている。

オ 調査研究事業

① 今後の調査研究に係る検討

平成24年（2012年）3月の公益財団法人への移行を機に、エメックスセンターとして取り組むべき中長期的な調査研究テーマの検討及び外部資金活用も視野においた事業を展開するため、環境省はじめ学識経験者による検討を引き続き行い、次年度以降の事業展開につなげていく。

② 尼崎港実証実験施設の活用

水質や底質、生物の生息環境の劣化等の進んだ湾奥部の環境の再生をめざして尼崎港に設置している人工干潟等の実証試験施設を共同研究の場として活用し、徳島大学、大阪府立大学、兵庫県環境研究センター等関係大学や研究機関と連携して閉鎖性海域の環境保全・創造方策に関する調査研究の推進を図る。

2 情報収集・発信事業

ア インターネットによる情報発信等

閉鎖性海域の環境保全と適正な利用に関する情報収集・発信のため、エメックス会議に関する各種情報（開催案内、論文募集情報等）の提供、エメックス会議・エメックス国際セミナー等の開催概要、エメックスセンターの活動内容（出版・調査研究実績等）等について、ホームページ（日本語・英語）に情報を適時に掲載するなどインターネットを通じた情報発信を行う。

イ エメックスニュース等による情報発信

当センターの活動状況、世界の閉鎖性海域の環境保全活動等を掲載した「エメックスニュース」を年2回程度発行する（日本語・英語）。

また、会議開催案内、論文募集等タイムリーな情報発信が必要な内容について、メール配信システム（メルマガ）を利用した情報発信を行う。

3 人材育成・普及啓発事業

ア 海の環境学習人材育成事業

地域団体等を対象とした海の環境学習活動を推進するため、関係機関の連携を得て、御前浜（西宮市）の人工浅場や尼崎港内の人工干潟等を活用し、講義や生物観察会を実施する。

イ 環境イベントへの出展等

エメックスセンター活動の普及啓発と閉鎖性海域の環境情報発信のため、エコフェスティバル（平成25年（2013年）11月予定）等各種環境イベントに出展を行う。